

## ジニア ダブルザハラ・シリーズ

学名: *Zinnia Marylandica*

種子粒数の目安: 300 から 600 粒/グラム

### プラグ生産ステージ

#### 培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0、また EC は 0.75mmhos/cm(2:1)以下が適正。

#### 播種

プラグトレイサイズ: 288 穴や 200 穴、あるいは同等のサイズのトレイに播種。播種後はバーミキュライト等で中程度の厚みに覆土する

ステージ 1 - 発芽には 2、3 日要する

温度: 20-22°Cが適正

光条件: 発芽には光は不要

水分: ステージ1では、水分レベルをややウェット(level4)に維持

湿度: 子葉が発生する頃までは相対湿度を 95-97%

#### ステージ 2

温度: 昼間 20-24°C、夜間 15-17°C

光条件: ステージ 2、3 においては 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで上げて可

水分: 水分レベルを中(level 3)からややウェット(level4)で維持する

肥料\*: レート 1(100ppm(N)以下、EC が 0.7mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える

#### ステージ 3

温度: 昼間 21-24°C、夜間 15-17°C

水分: ステージ 2、3 においては、水分レベルは中(level 3)を維持

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N))に上げる。pH は 5.8-6.2、EC は 0.7-1.0mmhos/cm(1:2)を維持

#### ステージ 4

温度: 昼間 18-21°C、夜間 15-17°C

光条件: 温度管理が適性ならば、53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで上げて可

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

#### PGR(矮化剤)

プラグ生産ステージにおいては、矮化剤は概ね不要である。もし必要な場合は、播種後 10 から 14 日で、B ナインを 1,250 から 2,500ppm を葉面に散布する。

### 鉢上げから出荷まで

#### コンテナサイズ

ダブルザハラの移植鉢のサイズは 10cm 前後が適当。または大きめの 18cm くらいのコンテナまで可能

#### 培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、初期の EC 値は中庸

#### 温度

昼間温度: 18-21°C

夜間温度: 15-17°C

#### 照度

適当な温度条件が維持されているならば、できるだけ高くします。光のレベルが高い方が八重花の数が増し、花の発色もよくなる

#### 肥料

移植後 1 週たってから、レート 3(175-225ppm(N)、EC : 1.2-1.5mmhos/cm)でリン酸分の低い、硝酸態の肥料を与える。もし必要ならば、株の生長の状態を見て、培地の pH のバランスを確認しながらアンモニア態の肥料を与えます。EC は 1.5-2.0 mmhos/cm、pH が 5.8-6.2 の範囲を超えないように注意する。肥料切れや栄養不足によるストレスで、八重花の数を減らさないようにしましょう

#### かん水

極端に過湿にしたり、乾かしすぎたりしないようにします。また真上からの、いわゆる頭上かん水は避けましょう。病気の発生などを防ぐ点からも、葉に水をあまり残さないよう水やりしましょう

#### PGR(矮化剤)

3,500 から 5,000ppm の B ナインを 2 回、葉面散布することで生長制御の効果が確認されています。初回は移植後 1 週たってから、2 回目はその後 7 から 10 日おいてから与えます。

### 平均的な生産期間

播種から移植まで(288-406 穴トレイ): 約 3 週

移植から出荷適期(開花)まで:

8 から 9 週 (春先)

5 から 6 週 (春から夏)

播種から出荷適期(開花)まで:

11 から 12 週 (春先)

8 から 9 週 (春から夏)

出荷適期までの期間はポットサイズによって変わります

#### 病例等

**害虫:** 生産初期はアブラムシに、また開花時期にはスリップスからの防除、管理が必要です。

**病気:** 湿度の高い、蒸れやすい環境は避けます。このような条件では、ボトリティスやウドンコ病が発生する可能性があります

**EC 値について:** EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。

#### 注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう